

INSTRUCTION MANUAL



MBF-P02 FIGHTER ASTRAY [RED FRAME]

紅色異端

DABAN
MODEL

M.S.Machinery 機體解説

CHARACTERISTIC

MBF-P02 ガンダムアストレイ レッドフレームの外観と共に内部メカニズムも立体化。GAT-X105 ストライクガンダムとの関連性を感じさせるフレーム構造で、動きに合わせて可動式シリンダーなども露出する。外装や内部メカニズムもディテール再現にとどまらず、パーツごとブロックごとに運動した可動により、ねじれや筋肉の隆起すらイメージした、より人間らしいポーズを実現した。

HEAD UNIT

【頭部】

頭部がメラアイ(目)は、クリアパーツの採用で、内部に組み込まれたライトユニットとボタン電池(OR1220・別売り)により点灯可能。設定どおり、頭頂部と顔が外せる構造になっている。



COCKPIT

【コックピット】

開閉式のコックピットハッチをはじめ、コックピット内部、搭乗パイロット(ロウ・キュール)に至るまで精密再現。ロウ・キュールは同スケールの立ちポーズも付属。



HAND UNIT 【マニピュレーター】

多色一体成形の指パーツにより、ランナー状態で指関節などの可動部が組み立て済み。これによりランナーから切り離すだけで色分けが完了し、各関節部も可動。表情豊かなポーズや武器のホールドが可能となっている。



ARM & LEG UNIT

【腕部&脚部】

腕部や脚部は、屈伸運動に合わせて装甲やフレームが運動。各パーツやブロックがスライドしながら伸縮することで、人間的な筋肉の隆起を思わせる可動を再現。



BACK PACK

【バックパック】

背面のバックパックは、アームによる上下の可動機構を持つ。ビームサーベルラックの取り外しも可能。



SOLE PATTERN

【足裏】

足裏にはソールパターンにあわせたラバーシールを貼る。クッション性の高いラバーシールは、滑り止めを兼ねており、アクションポーズの安定感をより高めている。



FRAME 【フレーム】

GAT-X105のデータを流用して開発されたという背景を持つアストレイ。その設定を活かしたフレーム構造を再現。装甲はすべて取り外しが可能で、腕部、脚部はそれぞれの動きにシンクロして各部装甲、シリンダーが運動。さらにスライドギミックが加わり、高密度の可動クオリティを実現。ロック式の可動機構を採用した股関節も加わり、柔軟なポーズが可能。

※組立通りに組み立てた場合はこの状態にはなりません。



BEAM RIFLE

【ビームライフル】

フォアグリップおよびトリガーは可動式。ライフルのジャケットを外すことでメカディテールが露出。

SHIELD

【シールド】

直視型ウインドウには、クリアパーツを採用し、シャッターギミックを再現。マウントにはラッチとグリップを採用。ロック機構で高い保持力を実現。



BEAM SABER

【ビームサーベル】

アストレイの背面ラックに装備される格闘専用ビームサーベル。柄の形状に合わせて幅広になっているビーム刃をクリアパーツで再現。

FIGHTER ASTRAY RED FRAME

【ガンダムアストレイ レッドフレーム】

従来の“可動モデル”という枠を超え、人体の動きに追従する事を目指した究極の“アクションモデル”「ストライクガンダム」。その構造を引き継いだのが「ガンダムアストレイ レッドフレーム」パーフェクトグレードモデルです。パーフェクトグレードモデルの魅力を最大限まで引き出す、“むき出しのフレーム”という設定は、ダイナミックなアクションポーズをお楽しみいただく際により際立ちます。



⚠ さやに収めない時は刀の先端に付属の保護チューブを必ず取り付けて下さい。

GERBERA STRAIGHT

【ガーベラ・ストレート】

ガンダムアストレイ レッドフレームの特徴を最も明確に表す武器「ガーベラ・ストレート」。日本刀の太刀のイメージを盛り込んだ刀身にはシルバメッキ加工を施し、刃紋まで再現。鍔や柄頭にはゴールドメッキ加工を施している。鞘の内部にラバーパーツの滑り止めを組み込むことで、刀身の抜き差しに適度な抵抗感が付与されている。アストレイ本体への接続は、専用のホールドパーツを介して行われる。



COLOR GUIDE

※よりリアルに仕上げたいかたは、下の基本色をご覧ください。
※塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

■カラーガイド

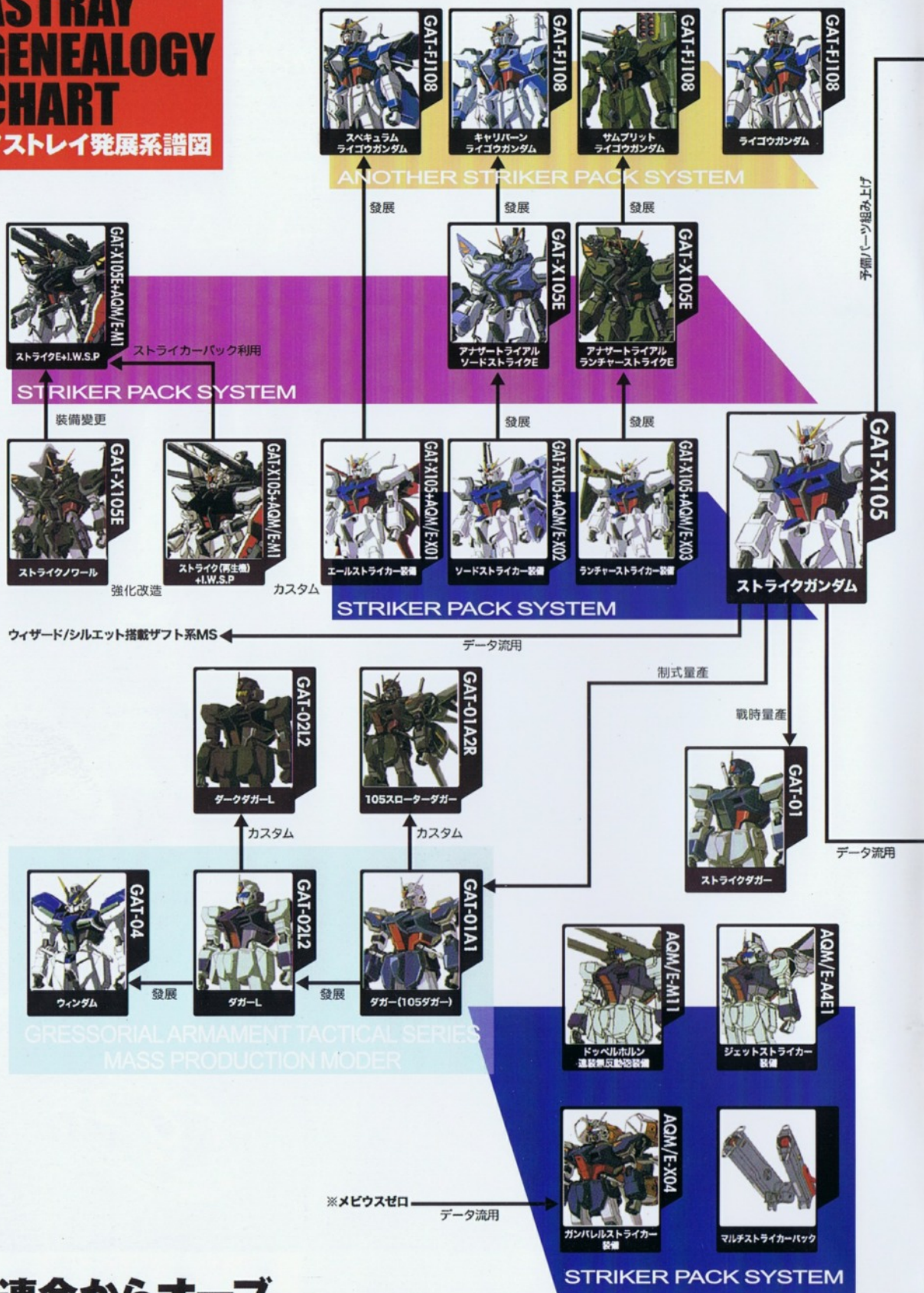
	本体等ホワイト部の塗装色。 ホワイト(100%) + ネービーブルー少量		カメラアイ等クリアグリーン部の塗装色。 クリアグリーン(50%) + クリアー(50%)		ロウの上着等ライトブルー部の塗装色。 スカイブルー(90%) + コバルトブルー(10%) + ピンク少量
	内部メカ等レッド部の塗装色。 モンザレッド(100%) + ホワイト少量		ガーベラ・ストレートの鍔等ゴールド部の塗装色。 ゴールド(100%)		ロウのスボン等ブルー部の塗装色。 インディブルー(100%) + パープル少量
	胸・シールド等ダークグレー部の塗装色。 ミッドナイトブルー(90%) + ホワイト(10%)		ロウの顔等ははだ色部の塗装色。 はだ色(100%)		ロウのクツ、ベルト等ブラウン部の塗装色。 ダークアース(100%)
	腹等ライトグレー部の塗装色。 ホワイト(40%) + ニュートラルグレー(30%) + ライトブラウン(30%) + レッド少量		ロウのパンダナ等グリーン部の塗装色。 イエローグリーン(100%)		ロウのクツ先端等ライトブラウン部の塗装色。 ダークアース(70%) + ホワイト(30%)
	ビームライフル等グレー部の塗装色。 ニュートラルグレー(90%) + ブラック(10%)		ロウの髪等ブラウン部の塗装色。 ウッドブラウン(100%)		ロウの服のマーク等イエロー部の塗装色。 オレンジイエロー(100%)

●ABS樹脂部分への塗装は破損する恐れがありますので、塗装はお勧めできません。 ※カラー配合は参考値であり、写真とカラーガイドの色は異なる場合があります。

※写真の完成品は、塗装してあります。

ASTRAY GENEALOGY CHART

アストレイ発展系譜図



連合からオーブ、 そして民間へ広がったMS技術

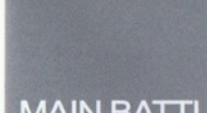
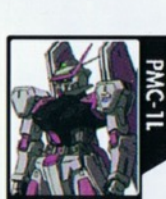
地球連合のモビルスーツは、ザフトの機体を研究し尽くし、新たな技術が数多く採り入れられていた。その中でも、特筆すべきものがストライカーパック換装システムである。

これはモビルスーツの背中を中心に、機体各部に規格共通化した装備を装着することで汎用性を維持しながらミッションへの対応能力を上げることが出来るものだった。同システムは、モビルスーツ開発史上、エポックメイキングとなる技術であり、次期大戦においては、ザフト側のモビルスーツにも同様のシステムがシルエット、ウィザードとして採用されている。また、連合や関連企業では、ストライカーシステムをさらに発展させ、「アナザーストライアルストライカー」を経て、「アナザーストライカー」が完成している。

一方、オーブでは、連合機の予備パーツや、技術を流用した独自機体と平行して、量産機の開発も行った。それが「アストレイ」シリーズである。この機体も、背中への追加装備装着システムを持っていた。アストレイのプロト機5機は完成後に流失し、オーブ軍以外の、民間を含めた各所に機体が流れた。各所に散らばった機体は独自の進化を遂げる。さらにこうして民間に広がったことで、アストレイシリーズは、軍以外(DSSD、ジャンク屋組合など)にも広く使われる機体へと進化していくことになる。



STRIKER PACK SYSTEM



MAIN BATTLE FIGURE SERIES PROTOTYPE

ストライクラージュ (エールストライカー装備)

LWSPI総合兵器 (ストライカーパック)装備

ライトニングストライカー 装備

アカツキ

アカツキ (シフヌイ装備)

アカツキ (オオワシ装備)

オオツキガタ

ムラサメ

ムラサメ偵察型

M1Aアストレイ

シュライク装備

レイスタ

ガンダムタイプヘッド レイスタ

M1アストレイ

シビリアンアストレイ DSSOカスタム

シビリアンアストレイ JGカスタム

ターンデルタ

レオンズ専用PMC アームアストレイ

強化

オプション

強化

オプション

?

アストレイゴールドフレーム 天(未完成)

フライトユニット装備

サルベージュユニット装備

パワーローダー装備

フルウエボン装備

アストレイ ゴールドフレーム天

アストレイ レッドフレーム パワードレッド

アストレイフルフレーム セカンドG

アストレイフルフレーム セカンドL

アストレイ ゴールドフレーム天ミナ

アストレイ レッドフレームMJ

アストレイレッドフレーム マーズジャケット装備

アストレイフルフレーム サード

アストレイフルフレームセカンドL ローエン格林ランチャー

フルアーマー フェイズシフト

強化発展

バージョン

発展

強化発展

オプション

局地对撃

非戦闘用に発展

パーツ流用

設計流用

データ流用

パーツ流用

強化

量産

強化

強化

強化

オプション

強化

局地对撃

強化

強化

変形

オプション

強化

作戦対撃

作戦対撃

強化

強化

強化

強化

強化

強化

強化

強化

強化

強化

強化

強化

強化

ガンダムアストレイ[レッドフレーム]

▶ MBF-P02 FIGHTER ASTRAY [RED FRAME]

人間に近い
技術の粋が昇華した
フレームを目指し
レッドフレーム！

Mobile Suit FIGHTER ASTRAY



用語解説

※1 プラント
遺伝子操作によって作り出された新たな人類。これまでの人類をナチュラル。彼らをコーディネーターと呼び区別する。プラントは、彼らのために作られたコロニー群の名前がそのまま国家名となっている。彼らはコロニーを母国とするため、食料や資源などは地上に頼らざるを得ない。連合と戦火を隔いた後も、一部同盟国や、民間との交流は続いていた。この中にはジャンク屋組合も含まれる。

※2 オープ運合官長国
南太平洋の群島からなる国家。コーディネーターとナチュラルが共存しており、プラントと地球連合の戦いに対しては、中立の立場を取っている。政治の中核には五大氏族と呼ばれる者たちがおり、特に軍事を司っていたサハク家は、自国防衛用のモビルスーツ開発に積極的であった。連合の開発に協力したのも、その技術を得るためだったと言われている。

※3 ZGMF-1017ジン
ザフトによって開発された最初の正規採用量産モビルスーツ。試作機の「ザフト」、プロト機の「プロトジン」(後に訓練用機となる)を経て採用された。人員と資材の少ないプラントが兵器の汎用性を高めることで、物量で勝る連合に対抗した。戦場に投入されたジンは期待以上の戦果を挙げた。ジンは名機であったが、人型と呼ぶには巨大すぎるバックパックなど問題点もあった。

※4 GAT-X105 ストライク
ヘリオポリスで開発されたモビルスーツの一種。同時に開発されたGAT-X102デュエルは標準機体。GAT-X103(バスター)は、砲撃機体。GAT-X207フリッツは、特殊フレームのステルス機。GAT-X303インジスは可変機であった。5機の内、GAT-X100シリーズの3機が、特に人間に近いフレームを採用している。

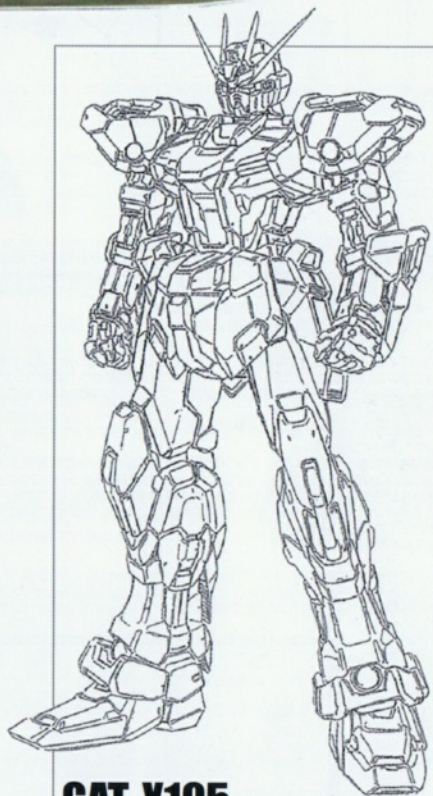
※5 OS面での不備
ザフトの襲撃を受け、民間人をパイロットに起動したストライクは、ノーマルのOSでは、まともに動くことが出来なかった。この時、偶然搭乗したパイロットが技術系のコーディネーターの学生であり、OSを最適化することでストライクは戦闘可能な状態となった。のちにこのパイロットは、オープのアストレイシリーズのOSの改良にも手を貸している。



コーディネイターの国「プラント」(※1)によって開発された人型兵器「モビルスーツ」は、それまでの兵器に対し圧倒的な性能差を持ち、瞬間に戦場の主役となった。地球連合は、物量でプラントの正規軍「ザフト」を圧倒していきながら、大戦序盤では苦戦することになる。この事態を打破するため、地球連合によるモビルスーツ開発がスタートされることになる。開発場所として選ばれたのは、オーブ連合首長国(※2)の所有するコロニー「ヘリオポリス」であった。連合に所属していないオーブがこの開発計画に関わるようになった裏には、「自国防衛用モビルスーツ」の開発を欲していた一部のオーブ支配層の思惑が動いていた。連合では鹵獲したザフトの「ジン」(※3)を研究し尽くし、幾つかの改善点を見いだした。これらは大きく四つに分けられる。一つ目はビーム兵器の搭載。二つ目は、汎用性を高める装備換装システム。三つ目は装甲の強化。四つ目は人間に近いアクションを可能とするボディ構造及びフレームである。ヘリオポリスで開発されたGATシリーズの一機「ストライク」(※4)は、これら全ての要素を実現した機体であった。完成した機体のシルエットは、まさに人間そのものであり、軍上層部の要求をほぼクリアするものであった(実際にはOS面での不備(※5)が残っていたが、これは運用しながら改善されていく)。

一方、連合のモビルスーツ開発を請け負ったオーブのモルゲンレーテ社では、その技術を使用して、極秘裏に自国防衛用のモビルスーツの開発に着手していた。「アストレイ」(※6)と名付けられたこの機体は連合の機体で実現した新基軸のシステムの多くを採用することになる。ビーム兵器の携帯、装備換装システムなどは、ほぼそのまま採用されている。逆に装甲シス

テム「フェイスシフト装甲」は採用されなかった。これは連合による技術のガードが固かったためであり、変わってアストレイでは発泡金属による軽量化装甲(※7)が採用されている。連合が開発した人間に近いフレームも、アストレイに活かされている。特に発泡金属装甲による軽量化は、より機体の動きに高い自由度を与えた。このことに開発中に気付いたオーブ技術陣は、アストレイから大胆に装甲を減らし、一見すると機体フレームがむき出しになっているかのような外見を作り出した。この外見から、アストレイシリーズのプロト機(※8)は、「色+フレーム」の名で呼ばれるようになった。ただしフレーム部分にまったく装甲がないわけではない。フレーム部にもパーツ構造に合わせた薄い装甲処理が施されており、強固、柔軟など各種特性を持ったものが臨機応変に組み合わされている。例えば赤いフレームを採用した「レッドフレーム」では、そのフレーム部の赤には微細な差異があり、大きく分けて二種類が存在している。構造体の性質の違いがフレーム装甲表面の反射率を微細に変化させているためである。この柔軟なフレーム構造を採用し、軽量化が施された機体は、これまでのどのモビルスーツよりも人間に近い動きをとることが可能であった。ただし極端に装甲を減らしてしまったことで、防御力の低下は避けられず、量産されたM1(※9)では、運動性能を犠牲にして、装甲面積を広げている。アストレイの運動性能を示す事実として、ジャンク屋に渡ったレッドフレームが、パイロットの修練の結果、巨大な太刀を自在に使いこなす「剣術」をモビルスーツで再現したことに現れている。レッドフレームは、太刀ガバーラ・ストレート(※10)を使い、コロニーさえ切断して見せた。この事実から、ストライクによってスタートした「人間的フレーム」は、アストレイにおいて完成をみたと言えるだろう。これはただ「戦闘力」だけを追求する軍事的開発では実現しなかったことであり、民間の技術や運用があって、はじめて得られた成果である。



GAT-X105ストライクガンダム

Comparison of rear body plugs

両機の背面プラグの比較

地球連合で採用されたストライカーバックは、モビルスーツの背中に共通規格の追加ユニットを装着するシステムだった。画期的なこのシステムも、背中に配置されたスラスターが使用できなくなる問題があった。連合の技術陣が研究したオーブ技術陣は、これに対応する答えをアストレイ開発で提示している。アストレイは、バックパックがアームで支えられており、装備追加時には機体下方に下がり、装備と両立出来る。



吾解説

※6 アストレイ(ASTRAY)
「王道ではない」という意味を持つ。連合の技術を盗用するような形で開発されたため、このような名前が付けられたと言われている。だが後にアストレイを手にした者たちが「王道でなくても自らの選んだ道を進む者たち」であったことは、非常に興味深い。なお、命名したのは、技術者のエリカ・シモンズと、オーブ五大氏族サハク家のロンド・ギナの二人である。

※7 発泡金属による軽量化装甲
発泡金属は、装甲を構成する金属の中に微細な空洞を無数に作ることで軽量化したものだ。軽くなった分、当然ながら防御力は低下している。アストレイの開発コンセプトは、敵の攻撃を「受ける」のではなく、「当たらない」ことにある。

※8 アストレイシリーズのプロト機
アストレイは、予備パーツ状態のものを合わせて、全部で5機が生産された。各機はテスト機として、それぞれ違った特長を持っていた。これらの機体は、ヘリオポリスがザフトに襲撃され崩壊した際に流失。この機体はオーブのサハク家が回収したが、二号機はジャンク屋、三号機は傭兵の手に渡った。その後、発見された四号機は、アジア圏のグリラが使用している。最後の五号機は行方不明の状態だ。

※9 MBF-M1 M1アストレイ
オーブの自国防衛のために生産された量産モビルスーツ。高い性能と優れた量産性を誇る機体であったが、大西洋連邦によるオーブ開放作戦(C.E.71 6/15)で多くの機体が見失われることになった。この大量のジャンクパーツが民間に流れたことも、アストレイシリーズが兵器以外の分野へ広まる要因の一つとなった。

※10 太刀ガバーラ・ストレート
地球を取り巻くデブリ帯に降れるように存在するグレイブヤード。そこに眠っていた太古の技術をジャンク屋ロウ・キュールが譲らせた。日本と呼ばれる国に古くから伝わる技術で作られた刀は、切れ味が鋭い。この刀には、同じくモビルスーツサイズの兄弟剣「タイガーピアス」も存在する。

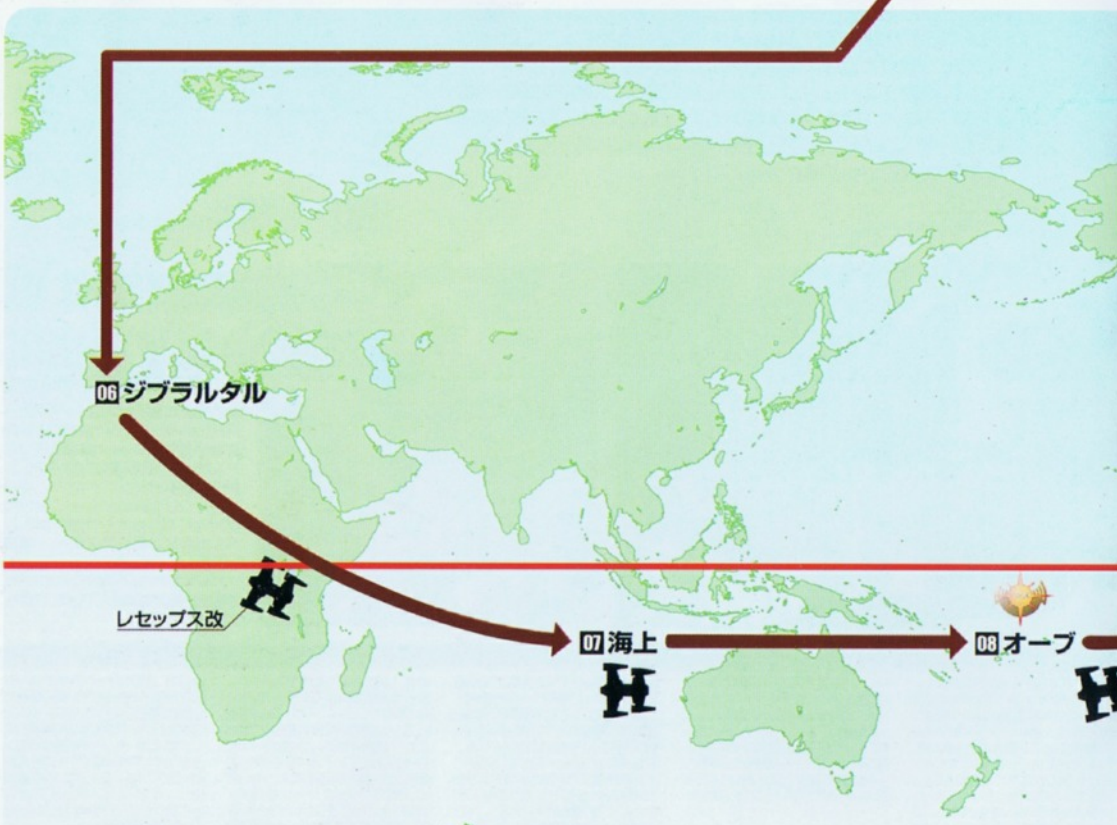
レッドフレーム (ジャンク屋チーム) の道のり

▶ MBF-PO2 FIGHTER ASTRAY [RED FRAME]

アストレイは、テレビアニメーション「機動戦士ガンダムSEED」の公式外伝である。本編開始から、現在までその作品は続けられている。公式外伝として、その世界観の時間軸を共有する本編と外伝は、両方をみると面白さが倍増する。アストレイは、現在までに「ASTRAY (ガンダムエース版)」、「ASTRAY (ザ・スニーカー版)」、「ASTRAY R」、「ASTRAY B」、「X ASTRAY」、「D ASTRAY (ガンダムエース版)」、「D ASTRAY (電撃ホビーマガジン版)」、「D ASTRAY (ザ・スニーカー版)」、「Δ ASTRAY」、「ASTRAY S」の10作品がある。この中から「機動戦士ガンダムSEED」の時代を描き、レッドフレームを駆るジャンク屋ロウ・ギュールの物語の軌跡を追ってみよう。それは、奇しくもアークエンジェル軌跡の後を追うようになっており、各地でのアニメのその後を知ること出来る興味深いものだ。

Mobile Suit FIGHTER ASTRAY

- 00 ヘリオポリス**
連合のモビルスーツが極秘に開発されており、ザフトの襲撃を受けたコロニー (アニメ本編: 4話)。ジャンク屋ロウは、廃墟となったコロニーの中からお宝を発見する。レッドフレームとブルーフレーム、二体のモビルスーツだ。ロウはそこで出会った傭兵部隊サーベントールの機動隊にブルーフレームを譲ることにする。
※「ASTRAY (ガンダムエース版): 1話」「ASTRAY R: 1話」
- 01 アルテミス**
ユーラシア連邦が所有する要塞。アークエンジェルが寄港した (アニメ本編: 6話) あとやって来たロウたちジャンク屋一行は、レッドフレームを奪おうとするガルシア司令の襲撃にかかる。同じように利用された跡の駆るブルーフレームとの戦いになってしまう。アストレイ対アストレイ!
※「ASTRAY (ガンダムエース版): 2話」
- 02 グレイブヤード**
地球を取り巻くデブリベルト。ジャンク屋やアウトローたちはこれをデブリ海と呼んでいた。そこに失われた技術を保管している「グレイブヤード」があった。ロウはレッドフレームにあった剣を作るためにここへやって来る。修行と鍛錬の結果、ロウはガーベラ・ストレートを修復することに成功する。また、デブリ帯の中でラクス・クラインの船とも遭遇し、これを助ける (アニメ本編: 7話)。
※「ASTRAY R: 2~4話」





- 01 アルテミス**
対ブルーフレーム戦
- 02 グレイブヤード**
地球
デブリ帯
- 03 リティリア**
ラグランジュ4にあるコロニー。外宇宙へ旅立つため、コロニー全体が宇宙船への改造を進めていた。その中心的人物として、ロウの仲間であるリーアムの兄もいた。リーアムは兄の行動が理解出来ないながらも、お互いを信じ、それぞれの生き方を尊重しようとする。※「ASTRAY (ガンダムエース版)」:3話
- 04 プラント**
コーディネーターの国、プラントにやって来たジャンク屋たち。特別にコロニー内に入った彼らは、ある人物からGGユニットと呼ばれるカプセルを託される。なんとそれはファーストコーディネーター、ジョージ・グレンの脳が保管されたカプセルだったのだ。一方、地上に降りたアークエンジェルは、バルトフェルトとの戦いに勝利し戦艦レセップスを大破させていた(アニメ本編:21話)。※「ASTRAY R:5、6話」
- 05 宇宙空間**
廃棄コロニーの破片回収の仕事をしていたロウたちは、突然金色のフレームを持ったアストレイの襲撃を受ける。それはヘリオボリスから運び出されたもう一機のアストレイ、ゴールドフレームだった。コロニーの破片ごと大気圏に落ちたロウたち。なんとか生きて降りられたものの母艦ホームを失うことになってしまふ。※「ASTRAY (ガンダムエース版)」:5話
「ASTRAY R:7話」
- 06 ジブラルタル**
地上のジブラルタルに降り立ったロウたち。そこで連合との戦いで破壊されたレセップスを発見。これを修理して自分の船にすることに。ところが艦の中にはバルトフェルトの副官ダコスタが残っていた……。両者は協力し合うことに。ひょんなことから傭兵部隊サーベントールとも再会。樹里はバルトフェルト専用バクゥを手に入れる。※「ASTRAY R:8、9話」
- 07 海上**
修理と改造によって海上航行も可能となったレセップス改。ロウは地元の老人たちの話から海底に眠るお宝を探すことになる。レッドフレームにグーンの外装を改造したサルベージユニットを装着し潜る。海底に隠されたお宝はザフトが作り出した巨大なレアメタルの固まりだった。取り返そうとするザフトを避けながら、ロウたちはプロフェッサーの提案でオーブへ向かう。※「ASTRAY R:10、11話」
- 08 オープ**
オーブにはアークエンジェルが寄港していた(アニメ本編:28話)。その修理を手伝うロウたち。オーブに潜入したザフトのアスランたちとニアミスするものの、ロウたちはまったく気づきもしないのだった。M1アストレイのパーツを流用してレッドフレームにフライトユニットを装備したロウは、オーブ近海の島でストライクとイギー・ジークが戦っている所に遭遇(アニメ本編:30話)。ストライクのパイロットを助けることになる。※「ASTRAY (ガンダムエース版)」:6、7話
- 09 ギガフロート**
民間の方で宇宙への入り口を作るため、マッドドライバーを装備した人工島「ギガフロート」の建設が開始されていた。その手伝いに入ったロウたちジャンク屋。だが、その建設を阻止しようとするロンド・ギナに駆るゴールドフレームの襲撃を受けてしまう。絶体絶命の中、助けに来てくれたのはブルーフレームを駆る彼であった。完成したギガフロートからロウたちは宇宙に再びあがる。※「ASTRAY (ガンダムエース版)」:9話
- 10 宇宙空間**
宇宙では先にあがっていたリーアムが新たな母艦を用意していた。リ・ホームと名付けられたその船の艦長はキャプテンGG。なんと艦だけの存在として生きていたジョージ・グレン本人だった。出港したロウたちは、ザフトの部隊が何者かに襲われている所に遭遇する。相手は強化改造を終え鶏々しい姿に変貌したゴールドフレーム天であった。レッド対ゴールド宿命の戦い。ブルーも加わり最終決戦へ! ※「ASTRAY (ガンダムエース版)」:9、10話 「ASTRAY R:12話」
- 11 デブリ帯**
ゴールドフレーム天との戦いで折れてしまったガーベラ・ストレートを修理するため、ロウは再びデブリ帯のグレイブヤードを訪れる。そこでロウは恩師である種良の最後を着取ることになる。ロウは、地球で手に入れたレアメタルを使い巨大な剣、150ガーベラ・ストレートを作り上げる。※「ASTRAY R:13話」
- 12 メンデル**
ラグランジュ4にある実験コロニーメンデルにやって来たロウたち。そこは過去に数々の遺伝子実験が行われていた所だった。現在は廃棄されたそのコロニー内で、プラント政府の依頼によりジョージ・グレンの遺伝子サンプルを探すロウと出会う。彼と話し、人にはそれぞれの生きる道があることを理解するロウであった ※「ASTRAY (ガンダムエース版)」:11話

レッドフレームの活躍が読める書籍

このページに示したレッドフレームの活躍は
以下のコミック/小説単行本にその詳細が描かれている。



機動戦士ガンダム SEED
ASTRAY
画:ときた洗一/シナリオ:千葉智宏
全3巻(角川書店)

ロウを主人公にしたコミック。SE ED本編と最も深く関わりを持つ。ブルーフレームも随所に登場。



機動戦士ガンダム SEED
ASTRAY R
画:戸田泰成/シナリオ:千葉智宏
全4巻(角川書店)

ロウを主人公にしたコミック。レッドフレームの活躍のみが描かれており、敵としてゴールドフレームは登場するが、ブルーフレームはほとんど登場しない。



機動戦士ガンダム SEED
ASTRAY B
著:千葉智宏
全1巻(アスキー・メディアワークス)

ブルーフレームの活躍を描いた小説。ただし、リティリアやギガフロートのエピソードなど、随所にレッドフレームが登場する。

アストレイバリエーション

▶ MBF-P01 / 02 / 03 / 04 / 05 / M1

MOBILE SUIT FIGHTER ASTRAY



MBF-P01

アストレイゴールドフレーム



MBF-P03

アストレイブルーフレーム



MBF-P04&05

アストレイグリーンフレーム & 5号機

予備パーツ状態だった4号機、グリーンフレームは、戦闘支援AIを搭載してアジア圏での紛争で使用された。同じく予備パーツだった5号機は詳細不明のまま行方不明となっている。

数々のバリエーションが異なる進化を遂げた特異機

オーブで自国の防衛用に開発された「アストレイ」シリーズは、そのプロト機としてMBFのPシリーズ(※1)が5機製造された。それぞれの機体は、異なるパイロットを得、異なる進化を遂げる。

MBF-P01(通称ゴールドフレーム)は、ヘリオポリス崩壊時に開発担当だったサハク家のロンド・ギナによって運び出された。この機体は、連合製の火器を使用するため、手に連合規格の武装プラグを持っていた。同時にオーブ独自の武装プラグも持っており、両軍の火器が自由に使える特殊機体となっている。フレームのゴールド色は、支配階級専用色(※2)であり、当初からオーブ五大氏族の人間が使用することを想定していたと思われる。ゴールドフレームは、ヘリオポリス脱出時に右腕を失うことになるが、後にストライクとの交戦で大破した連合のブリッツ(※3)の腕を移植している。この時にミラージュコロイドステルス技術も解析導入された。ゴールドフレームの装甲はシステム対応装甲に換装され、漆黑になった。その後もゴールドフレームは、オーブの軍事を司るサハク家の戦略に合わせ、武装を強化していく。最終形態である「天(アマツ)ミナ」では、巨大な翼状の武器「マガノイクタチ」(※4)など大型武器を多数装備され、悪魔的な外見へと変貌した。

MBF-P02(通称レッドフレーム)は、ヘリオポリス崩壊直後にやって来たジャンク屋ロウ・ギュールによって発見された。破壊されたメカを修復するジャンク屋は、破壊を生み出す軍人とは対極の存在である。彼を主人にしたことで、レッドフレームはアストレイの中でも、もっとも特異な存在となる。レッドフレームの開発時のコンセプトは、ナチュラルが操縦可能な機体(※5)であった。それまでモビルスーツの操縦はコーディネイターだけが可能なものであったが、オーブ国民にはナチュラルとコーディネイターが混在しており、両者が使用可能な機体が必要としていたのだ。レッドフレームを手に入れたロウもナチュラルであったが、彼は「8」(※6)と呼ばれる疑似人格を搭載したAIによるサポートがあったことも運用するうえで大きかったようだ。ロウは、太刀ガベラ・ストレートをレッドフレームに装備させる。武装はしているものの、彼は本機を作業用マシンとして使い続けている。兵器として作られながら民間で使われ続けている機体は、希少な存在だと言えるだろう。

MBF-P03(通称ブルーフレーム)は、傭兵部隊サーベントールのリーダー・叢雲劾がパイロットとなった。彼はミッションに合わせた各種装備をブルーフレームに施していく。実は、この機体は元々オプション装備(※7)のテスト用に開発されたものであり、頭部コンピュータには、そのための設計データも収められていた。多くの戦場を渡り歩いたブルーフレームは、全体的な強化改修が二度にわたって行われている。セカンド、サードと進化

用語解説

※1 Pシリーズ
P01~05までの5機。ヘリオポリス崩壊までに完成していた機体で、それぞれ機能的な特色を持ち、さらにフレームの色が塗り分けられていた。計画がさらに進行した場合、さらなる機体が作られる予定だったのかは不明だ。

※2 支配階級専用色
オーブでは、五大氏族を含む支配階級用の機体には金色が使われるようだ。ゴールドフレーム以外では、機密に開発されていたORB-01アカツキがある。この機体は、カガリ・ユラ・アスハ専用機であり、ストライカーシステムに独自の独自追加装備シラス・イ・オウジを持っている。アストレイは、この機といえる機体だ。

※3 GAT-X207ブリッツ
ストライクと同時にヘリオポリスで開発された連合製モビルスーツの一般。ザフトによって奪取され、そのままオーブ近海で破壊されるまでザフトで運用された。ミラージュコロイドと呼ばれるステルス機能を持ち、完全なステルス状態に陥り得る。

※4 マガノイクタチ
格闘戦用の武器であると同時に接触した敵のパワーを吸収することが可能な特殊兵器。本来は効果エリア内の敵パワーを奪うことで、敵を殺さずに排除する、防衛に徹した技術として開発されたが、非接触での運用が成功せず、格闘戦での接触使用のみの武装となった。現在の所、このシステムを搭載しているのはゴールドフレーム天ミナのみである。

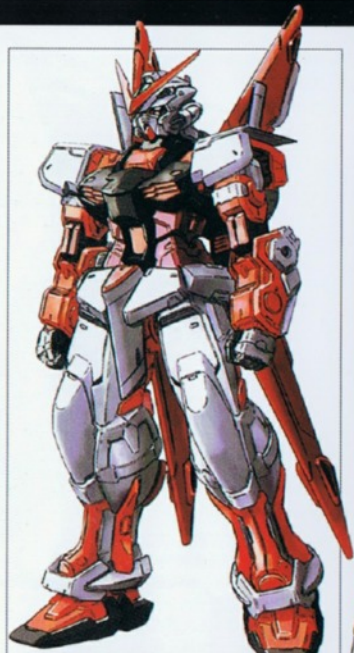
※5 ナチュラルが操縦可能な機体
地球連合の兵士もナチュラルであり、この分野には力を入れていた。最終的にナチュラルが操縦可能な機体用OSは、ストライクのパイロット、キラ・ヤマトによって生み出される。



したブルーフレームは、戦闘マシンとして最強進化した機体である。MBF-P04（通称グリーンフレーム）は、予備パーツ状態だったものが組み上げられた機体であり、フレームの緑もオープの指定色ではない。単純に運用場所がジャングルであったために選ばれた色だ。本機はアジア圏における紛争（※8）に参加、地域住民によるゲリラの青年トロヤ・ノフレが使用した。グリーンフレームには新たに開発された戦闘支援AIが搭載されており、敵の動きを予測して戦うことが可能だった。これは守りに徹した時に一番能力が発揮される機能であり、そもそも「国を守るための機体」として開発されたアストレイに相応しいものであった。MBF-P05は、グリーンフレームと同様に予備パーツ状態であったが、ヘリオポリスの崩壊後、完全に消息が分からなくなっている。

一方、ヘリオポリスでのPシリーズ開発と平行して、地上のオープ本国では、アストレイ量産機の開発も進められていた。完成したMBF-M1 M1アストレイは、ナチュラルの操縦も可能なOSを搭載し、赤いフレームを採用した機体であった。量産機では、生産性や整備の容易さなどが重視されたためPシリーズほどの性能は持たなかったものの、当時の量産機にはめずらしくツインアイのガンダムフェイス（※9）を採用している。またシュライクと呼ばれる飛行用ローターが追加装備として用意されるなどPシリーズが持つ機能が最大限に活かされた機体であった。

M1アストレイは、旧大戦中に大量投入されたものの、その多くが破壊され、ジャンクパーツとして民間で再利用された。こうしてM1アストレイのジャンクパーツから作られた民生機体にはレイスタ（※10）がある。本機は、非戦闘用モビルスーツの普及に非常に役立ち、後に登場する多くのアストレイの発展機を生み出すことになる。



MBF-M1 M1アストレイ



パワーレッド



用語解説

※6 「8」（ハチ）
ロウが率いる宇宙船からサルベージした類似人格を持つコンピュータ。モニターの一つはトランクケースに納められており、意思表示はモニターに文字を表示して行う。内部はブラックボックスであり、どんな構造なのかは不明。名前由来は回収時に付いたナンバリングの読み取れた数字から。

※7 オプション装備
アストレイは、ストライクから受け継いだ背中へのオプション装備に加え、頭部ユニットの換装も可能であった。ブルーフレームもミッションにあわせた数種類の頭部を使っている。ちなみに青いフレームは、特殊機専用カラーである。ブルーフレーム以外では宇宙専用機MBF-M1A M1Aアストレイなどが青いフレームを持つ。

※8 アジア圏における紛争
アジア圏の一部の地域は、プラントと地球連合の戦いにおいて戦略的に重要な位置ではなかった。そのため、両者の間にみ合いが長く続き、耐えかねた現地人がゲリラ化した。三つ巴の様相を呈していた。グリーンフレームは、元オープ軍のエースパイロット、バリー・ホーによってこの地域に持ち込まれ、戦いを大きく左右する存在となった。

※9 ガンダムフェイス
ストライクやアストレイなどヘリオポリス製の機体に採用されたフェイスデザイン。人間と同じく二つの目（カメラアイ）を持ち、高い素敵&視認能力を持つが、機構が複雑なため量産機では採用されないことが多い。ガンダムという名はキラ・ヤマトが呼び始め、彼に関係した人間から広まっていった。現在では、このタイプのフェイスの機体は所属に関係なくガンダムと呼ばれる傾向にある。

※10 MWF-JG71レイスタ
ジャンク屋組合が、非戦闘用使用の制限を付けて、レンタルや販売を行っていた民生モビルスーツ。そのパーツの半分近くがM1アストレイからの流用であった。名前は「アストレイ（ASTRAY）」を「レイスタ（RAYSTA）」とアナグラムしたものだ。

アストレイ武装

▶ MBF-P02 FIGHTER ASTRAY [RED FRAME] / MBF-P03 FIGHTER ASTRAY [BLUE FRAME]

Mobile Suit FIGHTER ASTRAY

GERBERA STRAIGHT

ガーベラ・ストレート

ロウ・ギュールが失われた技術を習得して作り出したモビルスーツサイズの刀。太刀と呼ばれる日本刀の一種である。ロウは、ぼろぼろに朽ち果てていたこの太刀を自らレッドフレームを使って打ち直し、蘇らせた。その切れ味は、恐ろしいほど鋭く、角度さえ合えばビームすら切り裂くことができる。ただし、日本刀はその使用にも高い技術が必要であり、ロウは自ら修行すると同時にレッドフレームのOSにも運用のための書き換えを行っている。

柄頭 つかがしら

柄頭には、鬼をモチーフにした装具が付けられている。刀を機体の腰に装着した時、正面に位置する最も目立つパーツであり、その造形にはロウの渾身の技術が惜しみなく注がれている。鬼がモチーフになっているのは、刀を抜くはなつ前に敵を威圧し、できるなら戦いを避ける、という意味が込められている。



目釘 めくぎ

刀身を柄に固定するため打ち込まれているパーツ。高い強度が必要とされる。ガーベラ・ストレートでは、貴重なレアメタルによる合金が使用されている。



茎 なかご

刀身の一部で、柄の中に収納される部分。ここには刀の銘(名前)が刻まれる。ガーベラ・ストレートにはその名を日本語にした「第一文字」の銘が刻まれている。もともと第一文字とは、第一文字則宗という刀鍛冶の作ったものに付けられる銘である。この刀にその名が冠されているのは、刃紋や切れ味など、太古の名刀に類似していたためと考えられる。古代日本の新撰組という組織に所属した沖田総司と呼ばれた剣士が第一文字を所有していたといわれるが、あまりに古く、伝説の時代の出来事のため真実かどうかは分からない。

鍔 つば

刃と柄の境目に装着されるパーツ。敵の剣が刃の上をすべった時に持ち手に当たるのを防ぐ。日本刀の装飾パーツとしても発展した歴史があり、ロウも美しい芸術品に仕上げている。ロウは、これを使用する時の心構えを現すため、敵を威圧する強い心の鬼と、慈悲と邪気払いを示す菊の花をあしらっている。



刀身 どうしん

刃紋と呼ばれる波形の模様が出てきている。これは刃に焼きを入れて作った刀剣の特長であり、この巨大な日本刀が、人間サイズの日本刀と同じ技術と行程を経て、作られていることの証明だと言えるだろう。日本刀では、この刃紋の美しさもその価値を高める。



BASIC WEAPONS

基本装備



BEAM RIFLE

ビームライフル

ザフト製モビルスーツが携帯ビーム兵器を実用化する以前の大戦初期段階で、アストレイに装備された火器。地球連合の技術を使用しており、性能もほぼ同等。グリップ部にパワー供給用のプラグがあるが、連合とは違う規格を採用しておりアストレイシリーズでない、この銃を使用することができない。アストレイは、手のひらのプラグから直接パワー放出して攻撃に使うこともできる。ただしこの運用法は設計段階では想定されていないものだ。

BEAM SABER

ビームサーベル

ビームの刃が出現する格闘用武器。実体剣より高い切れ味をもっている反面、鈍回り合いといった実体剣と同様の運用はできず、ビームサーベル専用の格闘術のマスターが必要となる。レッドフレームには、実体剣であるガーベラ・ストレートが装備されているため、ビームサーベルの使用機会は多くない。



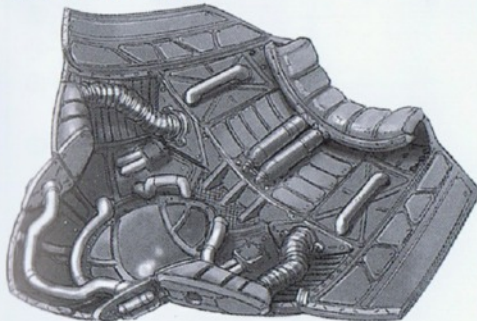
SHIELD

シールド

地球連合でも採用されているシールド。通常の実体弾を防ぐだけでなく、表面に細かいレッド構造を採用することで、シールド表面でビームを攪乱し、その威力を軽減することができる。発泡金属の装甲を持ち防御力が低いアストレイにとって重要な装備である。ただし、軽量による機動性を重視するパイロットの中には、シールドを装備しない者も多い。

OPTIONAL UNIT

オプション装備



SALVAGE UNIT

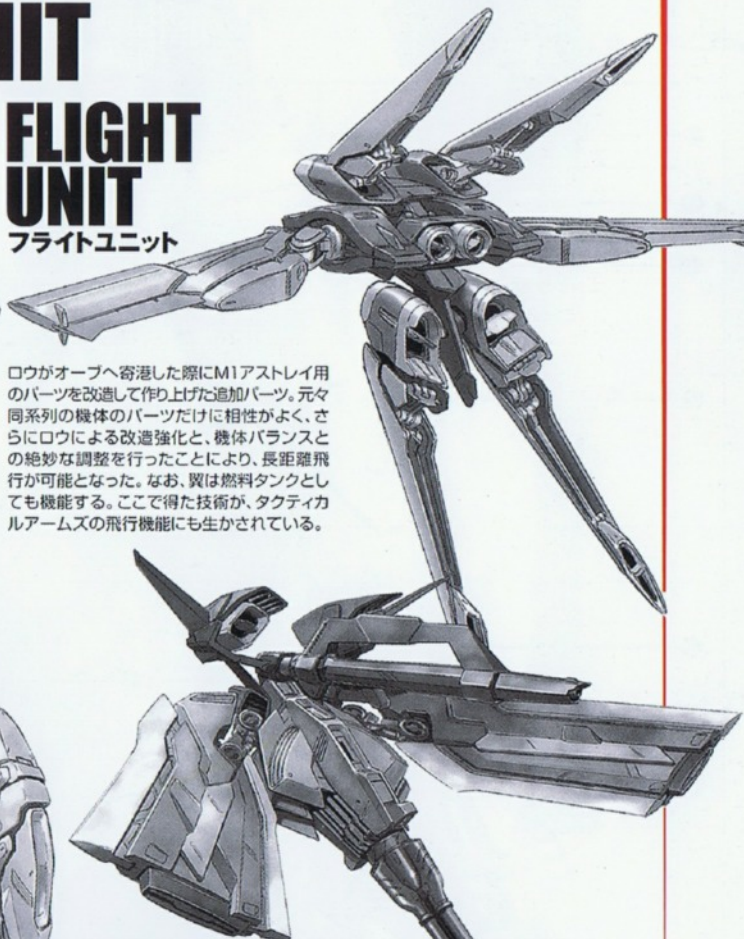
サルベージュユニット

ザフトの水陸両用モビルスーツ「グーン」の外装を再利用した装備。これをすっぽり被ることで、レッドフレームは対水圧性能を得る。ジャンク屋ならではの装備だと考えるだろう。手もユニット内に収納してしまうため、外装に新たにマニピュレーターを装備している。このマニピュレーターはパワーは出ないものの外装の背中に付けたガーベラ・ストレートを引き抜いて使うことも出来る。また、緊急時には外装はバージすることが可能。

FLIGHT UNIT

フライトユニット

ロウがオープンへ寄港した際にM1アストレイ用のパーツを改造して作り上げた追加パーツ。元々同系列の機体のパーツだけに相性がよく、さらにロウによる改造強化と、機体バランスとの絶妙な調整を行ったことにより、長距離飛行が可能となった。なお、翼は燃料タンクとしても機能する。ここで得た技術が、タクティカルアームズの飛行機能にも生かされている。



POWER CYLINDER ARM UNIT

パワードレッド用腕部

工学博士にしてエースパイロットであったジャン・キャリーが開発した新型パワーシリンダーを内蔵した腕。通常のモビルスーツを大きく凌駕する力を発揮でき、150メートルあるシアメタル製の巨大ガーベラ・ストレートを振るうのに使われる。フルパワーを発揮すると、放熱効率を上げるため各部の装甲が展開する。本装備は通常の腕と交換する形で装着され、装着したレッドフレームは特別にパワードレッドと呼ばれる。



TACTICAL ARMS

タクティカルアームズ

本来、レッドフレーム用にロウが開発していた装備だったが、破壊されたブルーフレームが改修される際に、蓋雲劾に譲られ、改修後のブルーフレームセカンドに装備された。大型のバックパックから、巨大なソード、そしてガトリング砲台へと三段階に変形する。初期ストライカーバックのエール(推力)、ノード(舵取り)、ランジ(砲撃)の二つを併せ持った究極の装備である。

MARK LOCATION

マーク指定位置

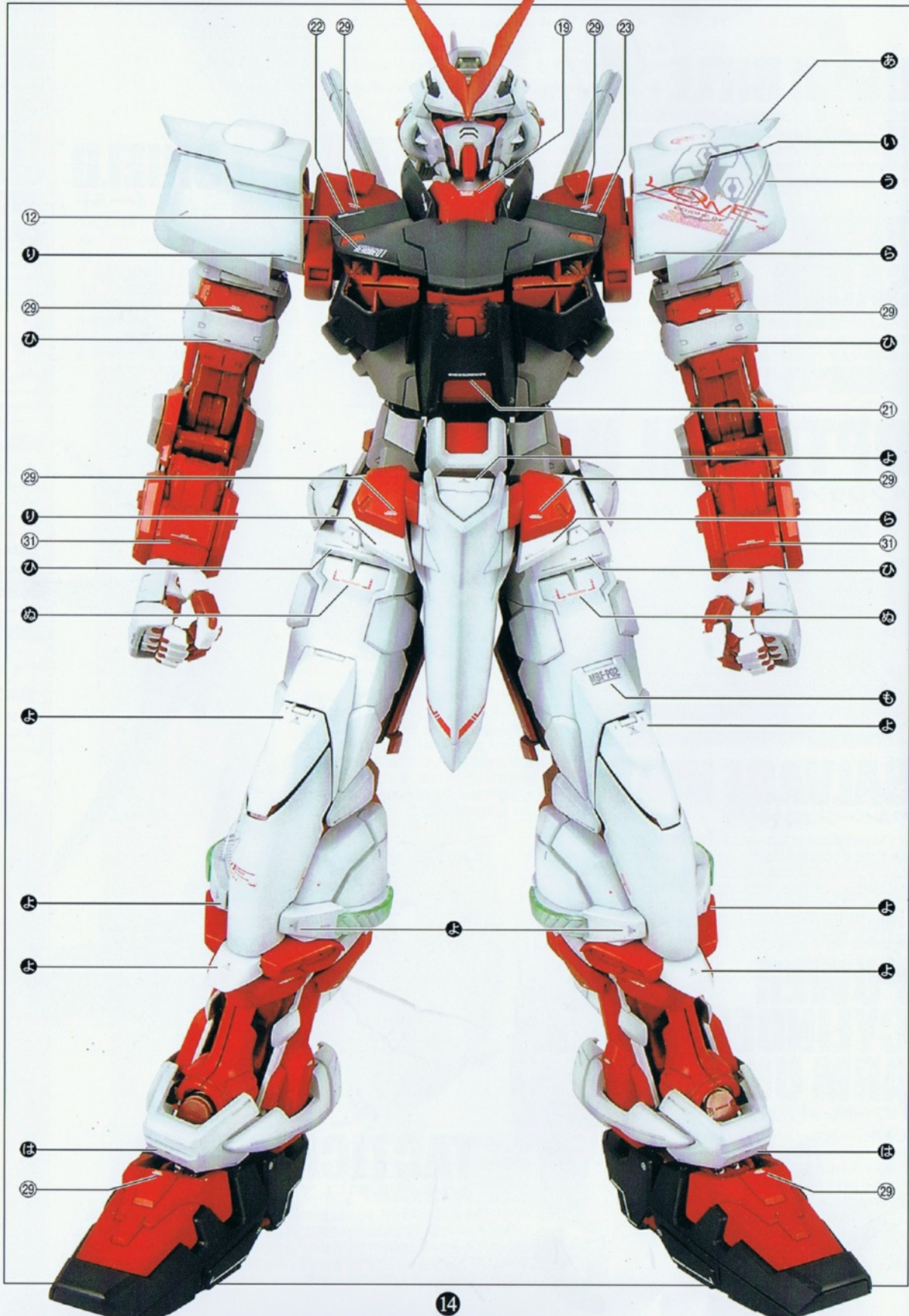
MBF-P02 FIGHTER ASTRAY (RED FRAME)

ガンダムデカールの貼りかた

1. 転写するマークを大まかに切り取ります。
2. 転写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます
3. シート部分を静かにはがし、転写していない部分があれば、もう一度転写していない部分をこすります。

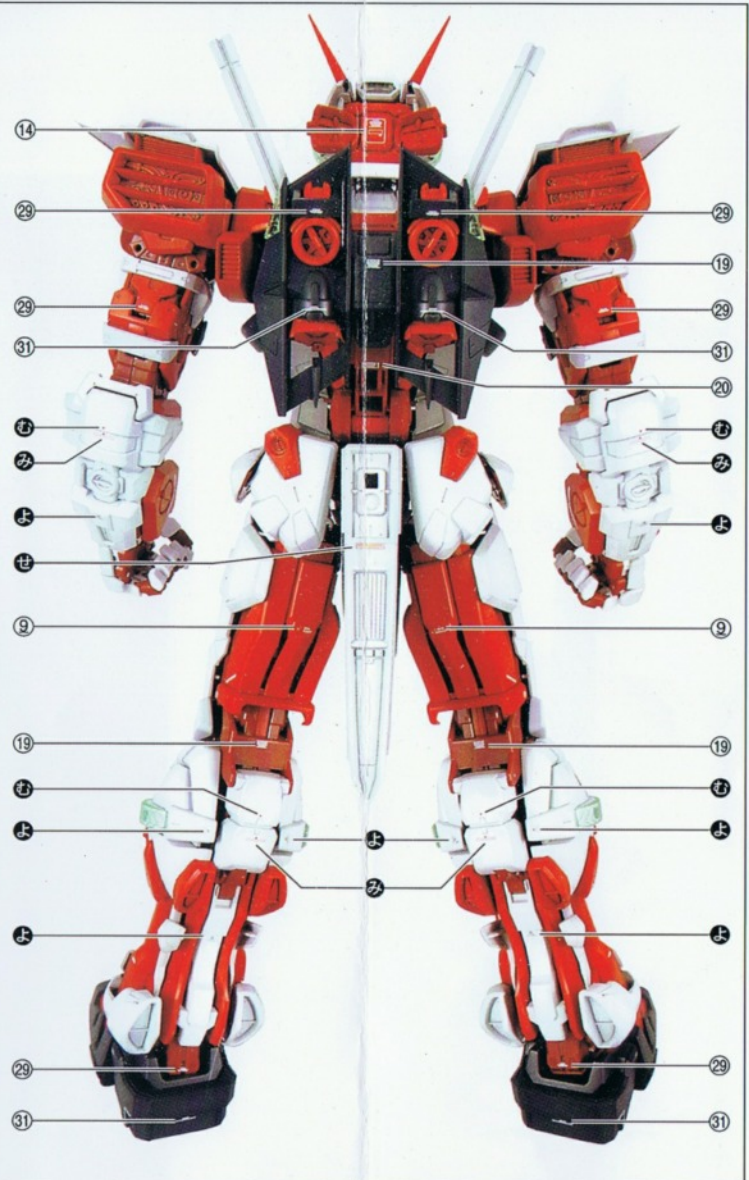
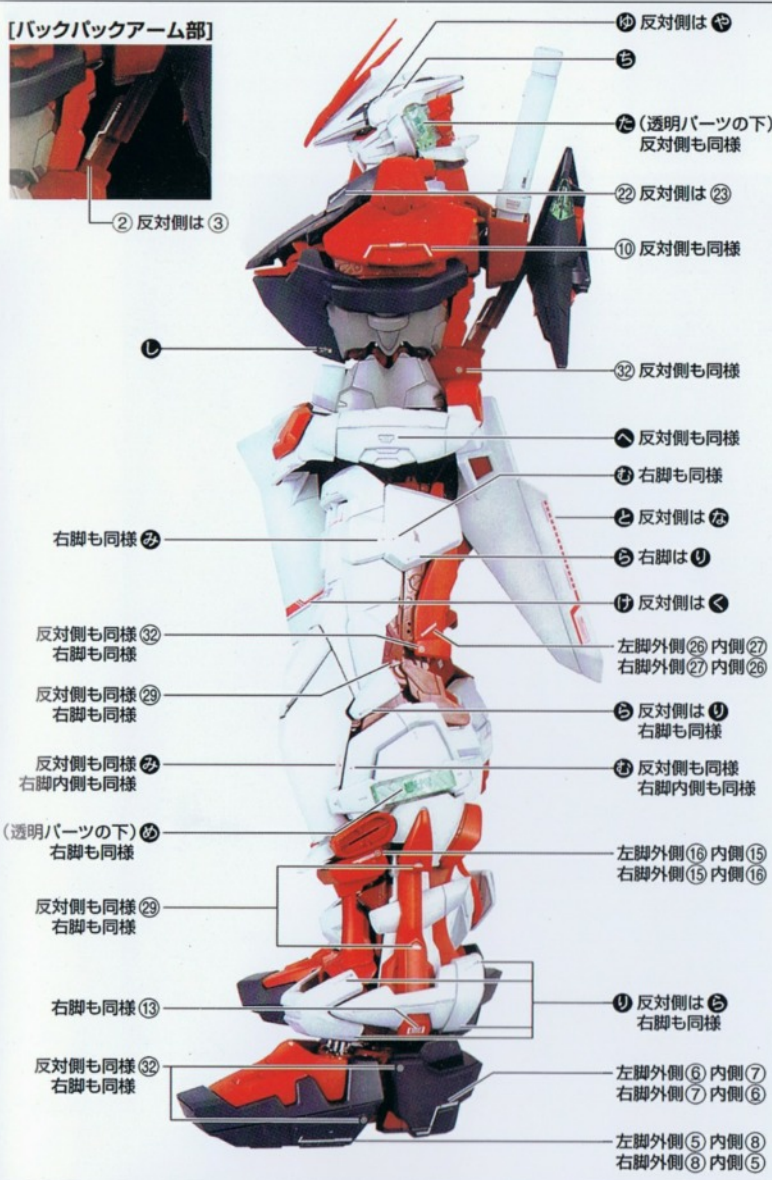
このマーキングシールおよびガンダムデカール指示は一例です。イメージに合わせてお貼りください。

※余ったマーキングやデカールは好きなところにお貼りください。



※下の図を見て、マーキングシールやガンダムデカールの貼る位置を確認してください。
 ※○数字は、マーキングシールの番号です。
 ※●文字は、ガンダムデカールの番号です。
 ※マーキングシールをきれいに貼りたい場合は、透明な余白をあらかじめ切り取ってお貼りください。
 曲面へ貼りこむ場合には、切り込みを入れる等をするといいいでしょう。

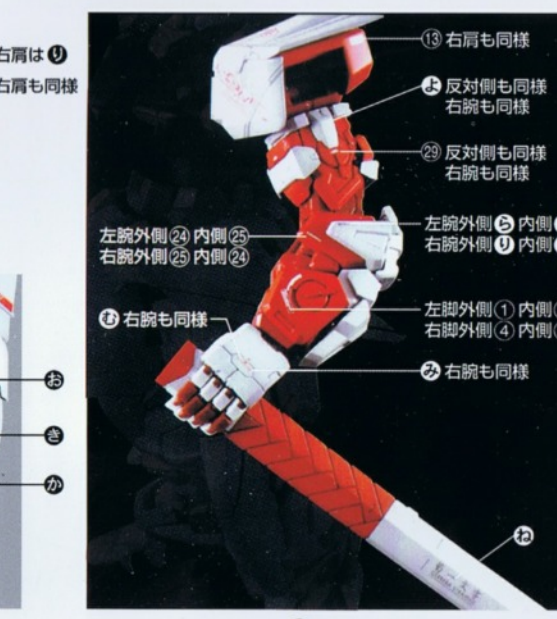
[バックバックアーム部]



[左腕]



[右腕]



マーク指定位置 MARK LOCATION



1/60 Scale Model